

2025年度

慶應義塾大学入学試験問題

総合政策学部

小論文

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないでください。
2. この問題冊子は、表紙を含めて16ページあります（問題は3ページから12ページ）。
試験開始の合図とともに全てのページが揃っているか確認してください。
ページが抜けていたり重複するページがあったら直ちに監督者に申し出てください。
3. 問題冊子は、試験終了後に必ず持ち帰ってください。
4. 受験番号と氏名は、解答用紙の所定の欄に必ず記入してください。

総

(下書き用)

「人間」「未来社会」「SFC での学び」

慶應義塾大学の湘南藤沢キャンパス（SFC）において、総合政策学部は「未来を切り拓くための政策」を追及してきた。政策とは「人間が何らかの行動をするために選択し、決断すること」であり、「人間の行動が社会であり、その社会を分析する科学は、総合的判断に立脚しなければ成り立たない」という認識をもとに、総合政策学部は進化してきた。

アルゴリズムとロボティクスがさらなる進化を遂げ、生命科学がその限界に挑み、仮想空間が実用化される現代。我々は「人間」とは何か、という問いを問い直すべきであろう。

「人間」という言葉、表現は実に多義的である。それが意味するところは、実は広がりがあり、様には定まらない。歴史上、様々な思想家、研究者、権力者、宗教者、果てには名もない一人一人の我々が、「人間」とは何かをそれぞれ定義し、生きてきた。

「人間」という概念、存在は実に多面的である。その概念は多様な議論を呼ぶ。ある側面を深く語るものは、ある別の側面を取りこぼすことがある。逆に多くの側面に触れようとすれば、一つ一つの側面の解像度が著しく低くなる。

従って、我々が「人間」を語る時、それぞれが異なる定義を暗黙的に持ち、それぞれが異なる側面に光を当てて議論するという悲劇が往々にしてある。

さすれば、我々がわかりあい、現実社会の奥底の問題に共に向き合い、その解決に取り組むのであれば、まず我々のそれぞれが、「人間」とは何かに関して、他者に対して自分なりの哲学、思想を述べることで、それが出来ることには価値があるだろう。

未来の社会は、より VUCA の時代、すなわち、現代よりも Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）の高い社会だと言われる。少なくとも、未来の予想は困難である。

しかし、政策を考えるということは、未来を構想することである。「未来社会」に対する自己の理想、もしくは想定、少なくとも想像がなくしては、その「未来社会」に向き合うこと、その「未来社会」のより良い状態を目指す政策を編み出すことはできない。

どのような未来が生じるのか、その問いに対する正確な答えは誰も知らない。しかし、少なくとも、「未来社会」において「人間」の在り様は大きく変化する。

例えば、我々の生物としての元来の能力を大きく上回る、また向上させうる力を持つ科学技術が社会に実装されるかもしれない。「未来社会」に向けて生じる様々な変化の中には、我々の存亡にかかわる状況をもたらす破壊的な変化もありえるだろう。

そのような時代に、「人間」はどう生きるべきなのだろうか。

慶應義塾の創立者の福澤諭吉先生は、慶應義塾は「全社会の先導者たらんことを欲す」と書き残した。総合政策学部の初代学部長の加藤寛は、SFC の学生は「未来からの留学生」とであると表現した。

未来からの留学生として慶應義塾で学ぼうと考え、「未来社会」において「人間」の先導者たらんことを欲す諸君は、「人間」をどう定義し、どう議論し、「未来社会」をどう捉え、そこでどう生きようとしているのだろうか。そして、SFC でどのような時間を過ごそうと考えているのだろうか。

総合政策学部の教員一同は、諸君の想いを知りたい。そして、諸君の期待に応える時間を提供したいと、心から願っている。

こうした背景から、次ページの問 1、問 2、問 3 に答えてもらいたい。

問 1

「人間」とは何か、を議論せよ。

但し、「人間」の多義性（注 1）、多面性（注 2）にふれ、複数の人物の思想（注 3）に言及すること。貴方が貴方に与えられた生きる時間を費やして目指したい「人間」の在り様も併せて述べること。必要に応じて資料 1 から 4 も活用すること（注 4）。

注 1：ある言葉、表現が多くの意味を持つこと。言い換えれば、多様な定義が可能なこと。

注 2：ある概念、存在が様々な側面を持つこと。言い換えれば、多様な議論が可能なこと。

注 3：言及する人物に関しては「慶應義塾の創設者である福澤諭吉」や「慶應義塾大学総合政策学部の初代学部長である加藤寛」のように一定の紹介の上でその思想に触れること。

注 4：これらの資料は過去の人物の思想の一部を記した文章であるが、これらの回答への採用は必須ではない。「人間」の多義性、多面性を例示する材料である。

問 2

「人間」は「未来社会」においてどう生きるべきかを議論せよ。

但し、資料 5（注 5）に表現された「未来社会」を批評（注 6）したうえで、貴方の考える「未来社会」の特性に言及すること。必要に応じて資料 6、資料 7 も活用し（注 7）、未来社会の先導者（注 8）たる貴方の立場で議論すること。

注 5：資料 5 は絶対ではない。正確かどうかはわからない。あくまで思考の具材であり、乗り越えるべき最低限の水準である。良所は評価し、限界は指摘し、依拠しすぎないこと。

注 6：批評とは、理由や根拠を示した上で、その作品の優劣を客観的に評価する事である。

注 7：これらの資料は、地球規模での「未来社会」を予想した文章であるが、これらの回答への採用は必須ではない。発想と議論の幅を広げる材料である。また、これらもあくまで予想であり、このような未来となるかどうかは実際はわからない。

注 8：慶應義塾の創立者は、資料 8 を「慶應義塾の目的」として書き残している。

問 3

「未来社会」において「人間」の先導者を目指す学生は、
SFC でどう時間を過ごすべきか、貴方の考えを教えてください。

但し、問 1、問 2 での回答を踏まえた内容とすること。また、SFC には多様な学生が存在しえるため、貴方自身や、貴方自身に類する「学生」に限定してかまわない。実際にできるかどうかは考慮せず、こう過ごすべき、という主張でかまわない。

資料1:社会心理学者の論考から「愛すること」エーリッヒ・フロム

愛が成熟した生産的な能力だとしたら、どんな社会に生きる人も、その愛する能力は、その社会が人々に広くおよぼす影響に左右される。現代西洋社会における愛について論じることは、すなわち、西洋文明の社会構造とそこから生まれた精神が、愛の発達を促進するようなものであるかどうかを問うことだ。そして、そのような問いが生じるということは、答えが「否」、つまり促進するものではないということである。西洋社会を客観的に見れば、あきらかに、友愛・母性愛・恋愛を問わず、愛が比較的まれにしかみられず、さまざまな偽りの愛に取って代わられている。この偽りの愛こそ、愛の崩壊のあらわれにほかならない。

資本主義社会は、一方では政治的自由の原理に、他方では市場原理にもとづいている。市場原理はあらゆる経済的関係を（したがって社会的関係をも）規制する。商品市場は商品の交換条件を決定し、労働市場は労働力の売買を規制する。有用な物も、有用な労働力や技能も、すべていったん商品化され、暴力や詐欺によってではなく、市場の条件にしたがって交換される。たとえば靴は、どんなに有用で必要なものとしても、市場において需要がなければ、なんの経済的価値（交換価値）もない。労働力や技能にしても、そのときの市場条件のもとで需要がなければ、交換価値はない。

資本家は労働力を買い、自分が所有している資本の有利な投資のために、その労働力を用いることができる。労働者は、餓死したくなければ、そのときの市場条件にしたがって、労働力を資本家に売り渡さなければならない。このような経済構造は価値体系にも反映している。資本は労働力を意のままに動かす。蓄積された物品は、生命をもたないのに、労働力や、人間の能力や、生きているものよりも、高い価値をもつ。

これが資本主義がはじまって以来の基本構造であった。これはいまでも現代資本主義の特徴であるが、多くの要素が変化したため、現代の資本主義は独自の性質をもち、現代人の性格構造は深刻な影響を受けている。

資本主義が発達した結果、資本はますます蓄積と集中の傾向を強めている。大企業はますます巨大化し、中小企業はどんどんつぶれていく。企業に投下された資本の持ち主は、その企業の経営からますます遠ざかっていく。何万、何十万という株主が企業を「所有」しており、いっぽう、経営陣は、高給をもらってはいるものの、その企業を所有しているわけではない。経営陣は、最大の利益を上げることよりも、企業の拡張や、自分の権力の拡大で、頭が一杯だ。

このように資本がいつそう集中し、強力な経営陣が出現するいっぽうで、労働運動も発展した。労働者の組織化によって、個々の労働者は労働市場で自分ひとりで労働力を売りに出す必要がなくなった。そして、労働者が加入する大きな労働組合もまた、個々の労働者に代わって、大企業と対決する強力な幹部によって運営されている。善かれ悪しかれ、資本においても労働力においても、主導権は個人から組織へと移行してきた。いまやますます多くの人々が独立を失い、巨大な経済帝国の管理者たちに依存するようになっている。

こうした資本の集中化によって生じたもうひとつの重大な点は、現代資本主義の特徴でもあるが、特殊な形で労働の組織化である。高度に集中管理された大企業では、徹底した分業体制によって、個々の労働者は個性を失い、使い捨ての機械部品のようなものになっている。

出所：「愛すること」エーリッヒ・フロム 著 鈴木晶 訳 紀伊国屋書店（2020年）より出題者が抜粋・編集
（原著 Erich Fromm (1956). "The Art of Loving"）

資料 2: 宗教者の講話からー「小さな「悟り」を積み重ねる」アルボムッレ・スマナサーラ

人は他の動物たちと違って、自分たちのことを“賢い生き物”だと思っています。人はいつでも「考える」から、「考えない動物よりも賢い」というわけです。

考えれば考えるほど、人は賢くなるというのが世間の常識です。でも、ほんとうに人は考えることで賢くなっているのでしょうか。

二百万年前に現れたという人類の祖先から始まって、現代までの間、膨大な数の人間が毎日、毎日繰り返し考え続けてきました。考えることで賢くなるのならば、人類の賢さにはどんどん磨きがかかって、今の世の中は賢い人だらけのはずです。

ところが、現実の社会は問題だらけ。たくさんの人が心に悩みと苦しみを抱えて生きています。

なぜそうなってしまったのでしょうか。結論から言えば、考えれば賢くなるというのは幻想なのです。そもそも人は「バカだから考える」のです。

間違ったことや的外れのことばかり考えて、余計にバカになっていく。そんな悪循環に陥っているのです。

私たちはそれこそ四六時中、考えています。あれこれ概念を作って考えるだけでなく、何かを見た瞬間にパッと閃く想念のようなものも、考えることです。

一瞬、一瞬、入ってくるさまざまな情報や刺激に瞬時に反応し、私たちは評価や判断を下します。この思考の反応に私たちは生のエネルギーの大半を使っているのです。

とりとめない思考には、いろいろな期待や願望や夢が紛れ込みます。ときには怒りや嫉妬や後悔も入ってきます。

「こうなれたらいいな」「能力を磨きたい」「穏やかな暮らしがしたい」「ああすればよかった・・・」「許せない・・・」

さまざまな思考が頭の中でぐるぐる回り続け、脳はガラクタで一杯になっているのです。

このガラクタを整理してスペースを空けなければ、人を成長させる智慧という宝物を収めることはできません。

人間のあらゆる問題は、考えることから起こっているのです。

出所：「小さな「悟り」を積み重ねる」アルボムッレ・スマナサーラ 著 集英社（2011 年）より出題者が抜粋・編集

資料 3: 権力者の散文からー「自省録」マルクス・アウレーリウス

たとえ君が三千年生きるとしても、いや三万年生きるとしても、記憶すべきはなんびとも現在生きている生涯以外の何物をも失うことはないということ、またなんびとも今失おうとしている生涯以外の何物をも生きることではない、ということである。したがって、もっとも長い一生ももっとも短い一生と同じことになる。なぜなら現在は万人にとって同じものであり、ゆえに失われるときは瞬時にすぎぬように見える。なんびとも過去や未来を失うことはできない。自分の持っていないものを、どうして奪われることがありえようか。であるから次の二つのことをおぼえていなくてはいけない。第一に、万物は永遠の昔から同じ形をなし、同じ周期を反復している。したがってこれを百年見ていようと、二百年見ていようと、無限にわたって見ていようと、なんのちがいもないということ。第二に、もっとも長命の者も、もっとも早死する者も、失うものは同じであるということ。なぜならば人が失いうるものは現在だけなのである。というのは彼が持っているのはこれのみであり、なんびとも自分の持っていないものを失うことはできないからである。

<中略>

人生の時は一瞬にすぎず、人の実質は流れ行き、その感覚は鈍く、その肉体全体の組み合わせは腐敗しやすく、その魂は渦を巻いて居り、その運命ははかりがたく、その名声は不確実である。一言にしていえば、肉体に関するすべては流れであり、靈魂に関するすべては夢であり煙である。人生は戦いであり、旅のやどりであり、死後の名声は忘却にすぎない。しからば我々を導きうるものはなんであろうか。一つ、ただ一つ、哲学である。それはすなわちうちなるダイモーン（注：ダイモーンまたはダイモニオン、人間の心の中にある神的なものをいう）を守り、これの損なわれぬように、傷つけられぬように、また快樂と苦痛を統御しうるように保つことにある。またなにごとでもたらめに行わず、なにごとでも偽りや偽善を以てなさず、他人がなにをしようとしまいとかまわぬよう、あらゆる出来事や自己に与えられている分は、自分自身の由来するところと同じ所から来るものとして、喜んでこれを受け入れるよう、なににもまして死を安らかな気持ちで待ち、これは各生物を構成する要素が解体するにすぎないものと見なすように保つことにある。もし個々のものが絶えず別のものに変化することが、これらの要素自体にとって少しも恐るべきことでないならば、なぜ我々が万物の変化と解体とを恐れようか。それは自然によることなのだ。自然によることには悪いことは一つもないのである。

出所：「自省録」マルクス・アウレーリウス 著 神谷美恵子 訳 岩波書店（1956年）より出題者が抜粋・編集
（原著 Marcus Aurelius Antoninus（成立年不明・諸説あり）. “Τὰ εἰς ἑαυτόν”）

資料4:劇作家の表現からー「マクベス」「テンペスト」「ジュリアス・シーザー」ウィリアム・シェイクスピア

There is a tide in the affairs of men
Which, taken at the flood, leads on to
fortune;
Omitted, all the voyage of their life
Is bound in shallows and in miseries.
On such a full sea are we now afloat,
And we must take the current when it serves,
Or lose our ventures.

人間のなすことには潮時というものがあり、上げ潮に乗れば幸運の港にたどり着く。
だが潮に乗り損ねれば、人生という航海の末路は浅瀬で座礁するという悲惨なものだ。

ジュリアス・シーザー (1599) (第四幕第三場)
英文出所:「大修館シェイクスピア双書 - ジュリアス・シーザー」ウィリアム・シェイクスピア 著 大場健治 編注 大修館書店 (1989)
和文出所:「シェイクスピア全集 25 - ジュリアス・シーザー」ウィリアム・シェイクスピア 著 松岡和子 訳 ちくま文庫 (2014年)

Life's but a walking shadow, a poor
player,
That struts and frets his hour upon the
stage,
And then is heard no more; it is a tale
Told by an idiot, full of sound and fury,
Signifying nothing.

人生はたかが歩く影、哀れな役者だ、
出場のあいだは舞台で大見得を切っても
袖へ入ればそれきりだ。
白痴のしゃべる物語、たけり狂うわめき声
ばかり、
筋の通った意味などない。

出所:マクベス (1606) (第五幕第五場)
英文出所:「大修館シェイクスピア双書 - マクベス」ウィリアム・シェイクスピア 著 今西雅章 編注 大修館書店 (1987)
和文出所:「シェイクスピア全集 3 - マクベス」ウィリアム・シェイクスピア 著 松岡和子 訳 ちくま文庫 (1996年)

O, wonder!
How many goodly creatures are there here!
How beauteous mankind is! O brave new world
That has such people in't!

こんなにきれいな生きものがこんなにたくさん。
人間はなんて美しいのだろう。ああ、素晴らしい新世界、
こういう人たちが住んでいるの!

出所:テンペスト (1611) (第五幕第一場)
英文出所:「大修館シェイクスピア双書 - テンペスト」ウィリアム・シェイクスピア 著 藤田実 編注 大修館書店 (1990)
和文出所:「シェイクスピア全集 8 - テンペスト」ウィリアム・シェイクスピア 著 松岡和子 訳 ちくま文庫 (2000年)

資料 5: 人工知能との対話からー Open AI ChatGPT (Model: GPT-4) の回答

「未来社会はどのような社会であるか」

我々は新たな時代の夜明けを迎えつつあります。未来の社会は、テクノロジーと社会の相互作用によって形成され、人間の生活や社会の在り方に大きな変革をもたらすでしょう。

AI は我々の生活の中心に位置し、家庭、職場、教育などあらゆる場面でその存在を見ることになるでしょう。量子コンピューティングは計算能力を革命的に向上させるとともに、データプライバシーとサイバーセキュリティの重要性を増加させます。

交通においては自動運転車が主流となり、交通事故の減少と効率性の向上をもたらすでしょう。一方、商用宇宙旅行は新たな旅行体験とビジネスチャンスを開きます。

エネルギー問題に対しては、再生可能エネルギーとエネルギーストレージ技術の進歩により、化石燃料への依存度を大幅に低下させるでしょう。これらの技術は地球温暖化対策にも寄与します。

生活の中では、バーチャルリアリティとウェアラブルテクノロジーが日常的に使われるようになります。これにより教育やエンターテインメント、フィットネス等が革新されるでしょう。3D プリンティングにより個々の家庭での製品製造が可能となり、新たな消費の形を生み出します。

医療においては、遺伝子編集とバイオテクノロジーが疾病の予防や治療方法を進化させます。テレワークの定着とリモートヘルスケアの発展により、生活の中での地理的な制約が緩和されるでしょう。

食糧供給においては、人工肉の普及と持続可能な農業の発展により、環境負荷の低い食物の提供が可能となります。ブロックチェーン技術は、金融だけでなく契約や認証の分野でも活用され、信頼性のあるデジタルトランザクションを実現します。

未来社会は、地球規模の問題を解決する一方で、地域主義やインクルーシブ社会の概念を強化するでしょう。これにより、多様性のある社会での公平な参加が可能となります。しかし、長寿社会と人口減少社会の課題を解決するためには、移民政策や AI の活用が必要となるでしょう。

この他にも、未来社会を彩る要素は数多く存在します。例えば、仮想通貨やデジタル通貨の普及は経済システムに大きな変革をもたらし、伝統的な金融機関の役割を再定義する可能性があります。また、仮想空間と現実空間の境界が薄れる「メタバース」の出現は、コミュニケーションの形態やビジネスの場を根本から変えるでしょう。

ビッグデータと AI の進化により、都市計画や社会サービスの最適化が可能となり、より快適で効率的な「スマートシティ」が実現します。一方、これらの技術革新による労働市場の変化は、働き方や雇用の形態を変えるだけでなく、教育やスキルの必要性を再考させるでしょう。

これらの技術革新や社会的な進歩は、私たちが未来を構築する手段であり、新たな課題を解決する鍵となるでしょう。しかし、その一方で、AI の倫理やデータプライバシー、サイバーセキュリティなどの新たな問題も生まれます。これらの問題に対応するためには、全てのステークホルダーが協力し、調和のとれた社会を形成する必要があります。

注：この文章は前提、制約条件を含むプロンプトで生成された初期回答を、3 回の追加指示により改善、加工して得た文章である。但し、同一のプロンプト及び追加指示を入力しても、本アルゴリズムの特性上、同一の出力が得られるとは限らない。

出所： chat.openai.com の出力結果より

資料 6: アメリカ国家情報会議の公開した「GLOBAL TRENDS 2040」より

本書は、未来の分析を行うにあたり、いくつかの段階を経た。第一に、人口動態、環境、経済、テクノロジーなど、未来の世界を形作る構造的な力について考察した。第二に、これらの構造的な力と他の要因が、人間の対応と組み合わせあって、社会、国家、国際システムにどのような影響を及ぼすかを分析した。第三に、遠い未来である 2040 年において、5 つの世界情勢に関するシナリオを策定した。

1. 『民主主義のルネサンス』では、世界は米国とその同盟国が主導する開かれた民主主義国家の復活の真っ只中にある。米国をはじめとする民主主義社会における官民のパートナーシップによって育まれた急速な技術進歩は、世界経済を変革し、所得を引き上げ、世界中の何百万もの人々の生活の質を向上させている。経済成長と技術的達成の上昇気流は、グローバルな課題への対応を可能にし、社会の分裂を緩和し、民主的制度への国民の信頼を新たにする。これに対し、世界の大国の一部では長年にわたって社会的統制や監視が強まり、イノベーションが阻害されている。
2. 『漂流する世界』では、世界の一部の大国、地域プレイヤー、非国家主体によって国際ルールや制度がほとんど無視され、国際システムは方向性を失い、混沌として不安定となる。経済協力開発機構（OECD）加盟国は、経済成長の鈍化、社会分裂の拡大、政治的麻痺に悩まされている。新たな世界の大国は西側諸国が抱える問題に乗じて国際的な影響力を拡大しようとしているが、一方でグローバルリーダーシップを発揮する意志と軍事力がなく、気候変動や発展途上国の不安定化など、多くの地球課題はほとんど解決されていない。
3. 『競争的共存』では、世界の大国は経済成長を優先し、強固な貿易関係を回復する。しかし、この経済的相互依存は、政治的影響力、統治モデル、技術的優位性、戦略的優位性を巡る競争と隣り合わせに存在するのも事実である。大戦争のリスクは低く、国際協力と技術革新により、先進国にとって地球規模の問題は短期的には対処可能であるが、長期的には気候変動という課題が依然として残る。
4. 『セパレート・サイロ』では、世界は、米国、中国、欧州連合（EU）、ロシア、そしていくつかの地域大国を中心とした、規模も強さも異なるいくつかの経済・安全保障ブロックに分断されている。これらのブロックは、自給自足、回復力、防衛に重点を置いている。情報は別々のサイバー主権者の飛び地の中で流れ、サプライチェーンは方向転換され、国際貿易は混乱する。脆弱な発展途上国はその渦中に巻き込まれ、破綻国家になりかけている国もある。世界的な問題、とりわけ気候変動は、まったく取り上げられていない。
5. 『悲劇と動員』では、EU と中国が主導し、非政府組織や活性化した多国間機関と協力するグローバル連合が、気候変動や環境悪化による世界的な食糧危機に対処するため、気候変動、資源枯渇、貧困に対処するための広範な改革を実施している。豊かな国々は、こうした世界的な課題が国境を越えて急速に広がっていることを認識し、貧しい国々が危機に対処し、低炭素経済へと移行するのを支援するため、広範な援助プログラムや先進的なエネルギー技術の移転にシフトしている。

資料 7: 米投資銀行ゴールドマン・サックスの公開した「The Path to 2075」より

『2075 年への道筋 - 世界経済の成長は鈍化し、しかし収束は維持される』

今回、我々は 2075 年までの 104 か国に関する世界経済予測を行った。その結果、世界経済について 4 つの主要なテーマを特定した：

テーマ 1：人口成長の鈍化に牽引される世界の潜在成長率の鈍化

我々の予測によれば、今後 10 年間の世界経済の成長率は年平均 3% 弱となる見込みである。この成長率は、主に労働力人口の伸びの鈍化を反映する。過去 50 年間で世界の人口増加は半減し、年率 2% から 1% 未満に低下し、2075 年にはほぼゼロになると予想する。

テーマ 2：新興国の成長率が依然として高く、アジアの強国が成長する

実質 GDP 成長率は先進国、新興国ともに鈍化するが、新興国の成長率は相対的に先進国を上回り続ける。我々当社の予測によれば、2050 年までに世界の 5 大経済大国（実質米ドルベース）は中国、米国、インド、インドネシア、そしてドイツとなると見込む（ブラジルとロシアはその座を譲る見通しである）。2075 年には、適切な政策と制度があれば、ナイジェリア、パキスタン、エジプトが世界最大規模の経済大国となる可能性がある。

テーマ 3：過去 10 年間の米国の相対的な高パフォーマンスは持続しない

過去 10 年間の米国の相対的な高パフォーマンスは予想以上であった。しかし、歴史が示唆するように、今後 10 年間に於いて米国がこれを繰り返す可能性は低いと予想する。米国の潜在成長率は依然として主要新興国経済よりも著しく低く、また、ここ数年の米ドル高も今後 10 年である程度巻き戻されると予想する。

テーマ 4：世界の不平等は改善され、より地域的な不平等が生まれる

過去 20 年間の新興国の成長により、世界の所得分配はより平等となった。しかし、国家間の所得格差が縮小する一方で、各国内の所得格差は拡大した。このグローバルな平等の進展とローカルな不平等の増大は、グローバリゼーションの将来に主要課題となるだろう。

出所：Goldman Sach (2022), “The Path to 2075 - Slower Global Growth, But Convergence Remains Intact”
より出題者が抜粋・編集・和訳

資料 8: 慶應義塾の目的—福澤諭吉先生の書かれた「慶應義塾の目的」と呼ばれる一文

慶應義塾は単に一所の学塾として自から甘んずるを得ず。其目的は我日本国中に於ける気品の泉源、智徳の模範たらんことを期し、之を實際にしては居家、処世、立国の本旨を明にして、之を口に言ふのみにあらず、躬行実践、以て全社会の先導者たらんことを欲するものなり



出所：〔慶應義塾豆百科〕No. 53 「慶應義塾の目的」、太字下線は出題者が編集

(下書き用)

総

(下書き用)

(下書き用)

総

(下書き用)